

## 【乳汁検査まとめ】

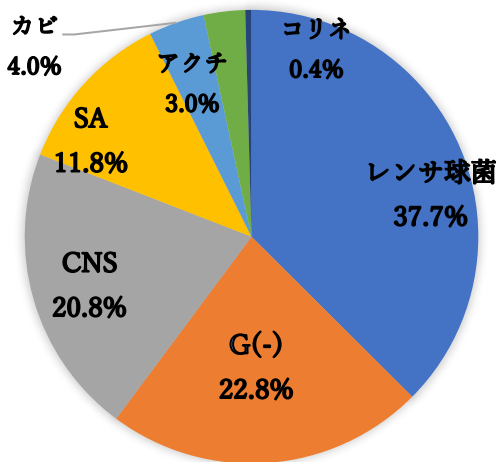
先月に引き続き、2024年の1年間で弊社にて検査した乳汁検査について報告します。

|      | 注射薬                | 軟膏     |
|------|--------------------|--------|
| AM   | アンピシリン Na<br>ビクシリン | ー      |
| Cz   | セファゾリン注            | セファメジン |
| ERFX | バイトリル 10%          | ー      |
| K    | カナマイシン             | タイニーPK |
| ST   | トリオプリン             | ー      |
| T    | OTC 注              | OTC 軟膏 |

表 1 略語、薬品対応表

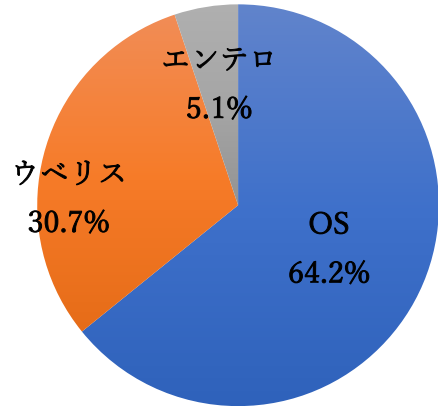
2024年の1年間で実施された乳汁検査では、延べ検査頭数 1661 頭、延べ検査分房数 3064 分房でした(重複含む)。この中で菌の生えたものは 56.3%、菌の生えなかったものは 43.7%でした。スクリーニング検査や乳房炎の治癒判定での検査等含まれるので、菌なしの割合が半数弱あると思われます。

菌の生えたものの内訳は、レンサ球菌 (OS、ウベリス、エンテロコッカス) が最も多く 33.7%で、次いでグラム陰性菌(大腸菌、クレブシエラ、緑膿菌、その他の大腸菌、菌種不明のグラム陰性菌含む) が 22.8%で、CNS が 20.8%、SA が 11.8%でした。(グラフ 1)



グラフ 1 乳房炎原因菌割合

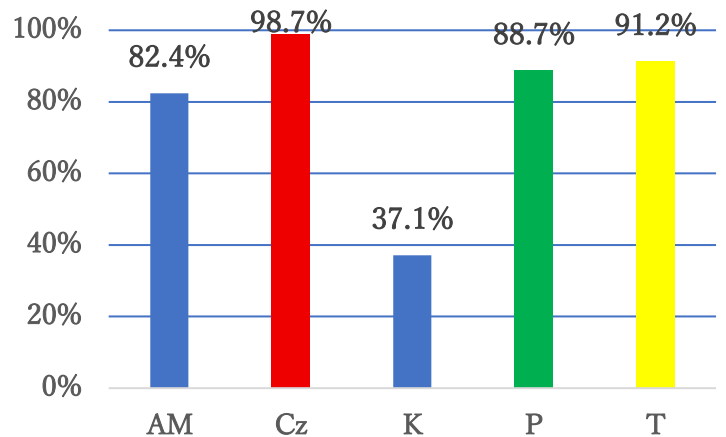
グラム陰性菌を G (-)、酵母様真菌をカビ、アルカノバクテリウムをアクチ、コリネバクテリウムをコリネと表記



グラフ 2 レンサ球菌割合

エンテロコッカスをエンテロと表記

OS が最多の 64.2%、ウベリスが 30.7%、エンテロコッカスが 5.1%となりました。この割合は例年あまり変化がありません。

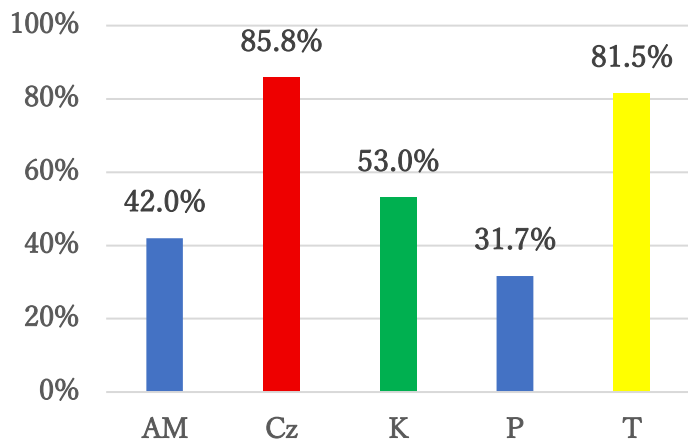


グラフ 3 SA 感受性割合

K (カナマイシン、タイニーPK) 以外の感受性割合が高く、どれも 80%を超えています。Cz (セファゾリン注・セファメジン) は感受性割合 98.7%です。

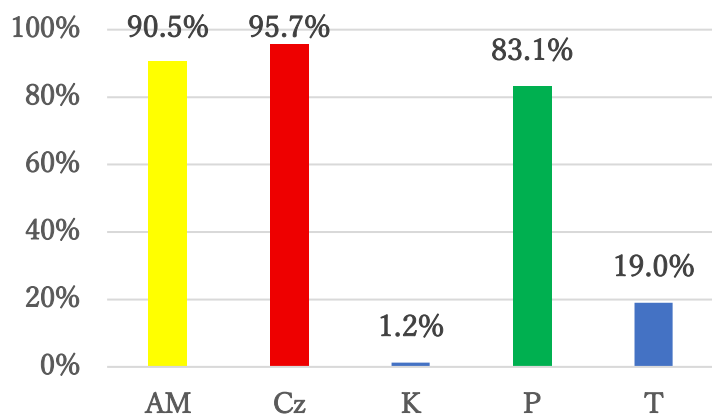


Total Herd Management Service



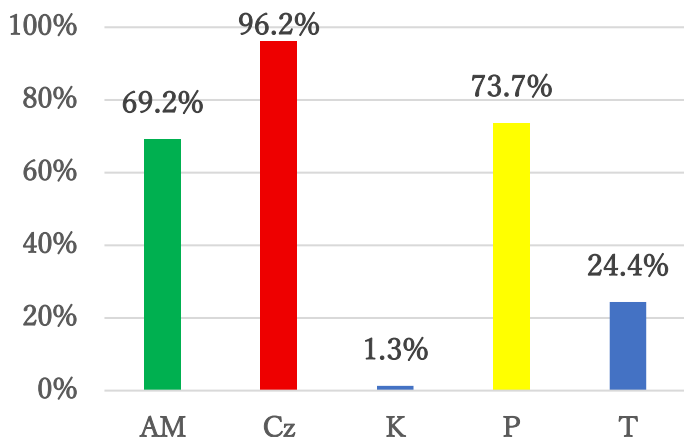
グラフ 4 CNS 感受性割合

SA 同様に Cz(セファゾリン注・セファメジン)、T (OTC 注・軟膏) が 1,2 番目に高い感受性割合を示しました。SA と比較すると K (カナマイシン・タイニーPK) 以外は感受性割合が 10%以上低下しています。



グラフ 5 OS 感受性割合

Cz (セファゾリン注・セファメジン)、AM (アンピシリン Na、ビクシリン)、P (ペニシリン、ニューサルマイ) の感受性割合が高く、80%以上あります。



グラフ 6 ウベリス感受性割合

OS と同様に Cz(セファゾリン注・セファメジン)、P (ペニシリン、ニューサルマイ)、AM (アンピシリン Na、ビクシリン) の感受性割合が高い結果となりました。Cz(セファゾリン注・セファメジン) の感受性割合は OS もウベリスも 95%以上ですが、P (ペニシリン、ニューサルマイ)、AM (アンピシリン Na、ビクシリン) の感受性割合はそれぞれ約 10%、約 20%低下しています。

レンサ球菌は生来 K(カナマイシン・タイニーPK) に耐性を持っているため OS、ウベリス共に感受性は低値を示しています。

終わりに

暑い日が続いています。乳房炎も増えてきた印象です。なかなか治癒しない場合は、軟膏治療で粘らず、乳汁検査を行うことをお勧めします。

また最近、依頼を受けた乳汁検査で、雑菌が生えることが多いように感じます。採材の前にアルコール綿花で乳頭をよく拭いて、清潔な状態での採材をお願いします。

来月からは 2025 年の上半期の乳房検査についてお伝えする予定です。

富田



Total Herd Management Service